

切除不能膵癌に対する温熱化学放射線療法 —その2：温熱療法の実施回数による治療成績の検討—

社会医療法人財団白十字会佐世保中央病院
放射線科 平尾幸一、堀上謙作、末吉 真
外科 國崎忠臣
臨床工学部 中島喜代子、上原かをる、中山絵美
関谷光彬、高取広太郎、森田晃平
長崎大学医学部放射線医学教室 山崎拓也

【はじめに】

stage IVa と stage IVb (M0) の切除不能膵ガンに対する温熱化学放射線療法（以下、HCR 療法）について、温熱療法の施行回数による治療効果について検討したので報告する。

【症例】

2001年4月～2014年3月までに、PSが0または1で、stage IVa：4例、stage IVb (M0) の5例の切除不能膵癌に対して、HCR療法を行った。内訳は、男性5例、女性4例で、stage IVa：4例、stage IVb (M0)：5例である。なお、膵癌術前照射、膵癌術後再発および粘液産生腫瘍、悪性リンパ腫は除外した。

【結果】

症例全体の生存期間は11～45ヶ月（中間生存期間27ヶ月）で、Grade3以上の有害事象は、6例で生じた。

温熱療法の施行回数が10回未満（5～7回、平均5.7回）と少なかった理由は患者さんが治療継続を拒否したものであり、stage IVa 2例、stage IVb (M0) 1例であり、生存期間は19、27、45ヶ月（2年/3年生存率67%/33%）であった。

温熱療法の施行回数が10回以上（10～80回、中間40回）であった6例は、stage IVa 2例、stage IVb (M0) 4例であり、生存期間は11～42ヶ月（中間27ヶ月、2年/3年生存率50%/33%）であった。

【考察および結果】

化学放射線療法に adjuvant chemotherapy を行った報告では38ヶ月以上の生存は得られていないが、当院では9例中3例が38ヶ月以上生存していた。HCR療法後に化学療法のみで温熱化学療法を追加していない症例でも45ヶ月の生存が得られており、HCR療法を積極的に行うべきと考えられた。